

平成27年度行政評価シート【個表】

平成 27 年 6 月 25 日

評価対象事業		評価者	教育センター所長 相田 良一
教育-37 相談室事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		主管課 教育センター 関連課
	総合計画上の位置付け	分野 学校教育	施策の方針 教育内容・教育環境の充実

1 事業の目的

対象	幼児から青少年まで(主に学齢期)の本人とその保護者等
意図	いじめや不登校などの悩みに対し、適切なカウンセリング・環境調整を介して支援を行うため。
効果	いじめや不登校などに悩む対象者が安心して学校生活や、社会生活を送れるようにする。

2 平成26年度に実施した事業の概要

電話・面接・訪問による相談業務を実施した。 教育支援(集団生活への適応・基礎学力の補充等)を実施した。 教育センターの維持管理を行った。
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	27年度当初予算		26年度決算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	
人口等のデータ	177,243人	80,676世帯	177,464人	80,368世帯	・各年3月31日 (住民基本台帳)
事業の対象者数			2,533人		
運営資源状況	当初予算(千円)	19,842	決算値(千円)	18,787	/
	国県支出金		国県支出金		
	地方債		地方債		
	その他		その他	1	
	一般財源	19,842	一般財源	18,786	
事業経費運営	人員配置数	1.9人	人員配置数	2.9人	/
	人件費(千円)	14,836	人件費(千円)	21,969	
	総事業費(千円)	34,678	総事業費(千円)	40,756	
市民1人当りの経費(円)	196	市民1人当りの経費(円)	230		
対象者1人当りの経費(円)		対象者1人当りの経費(円)	16,090		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

平成26年度事業実施にあたっての課題	各機関との連携を強化する。教育相談員、スクールソーシャルワーカー、心のふれあい相談員等の配置時間の増加を目指す。			
課題解決のために行った平成26年度の取組	相談者や学校支援等の増加に伴い業務量が增大したが、教育相談員等のスタッフが連携して支援を行うことができた。教育相談員の増員を要求し、平成27年度は増員することができた。		<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決	
未解決の課題 新たな課題	小学校で児童の相談・支援にあたる「心のふれあい相談員」の配置時間を増やす。不登校児童生徒支援のため、フリースクール等民間機関と更なる連携を図る。相談室の面接室の不足やプレイルームの確保等相談環境の改善を検討していく。			
効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない		
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない		
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している		
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいか	3. 廃止・休止による影響は大きくある		
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である		
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している		
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△. 負担未導入	△-2. 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである	
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○. 協働実施済	○-2. 既に市民等と協働して適格に事業を実施している	
			協働実施済の場合のパートナー 鎌倉女子大学	
事業内容の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す → <input type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →	見直しの種類	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他	学校現場における教員の世代交代が急激に進み、複雑多様化する問題に対応し切れない事例も増えている。相談室の持つ専門性を生かし、児童生徒・保護者・教職員への支援が行える体制を整えていきたい。
				事業へ統合
予算規模の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	相談者の増加や困難事例が増えるなか、平成27年度予算で教育相談員の増員を実現できたことは大きな収穫だった。未然防止や早期発見、早期解決が図れる体制を充実することで教職員の負担を減らすことができると考える。	
総 評	悩みを抱える児童生徒・保護者への相談活動や学校支援、不登校の未然防止のための欠席状況調査やいじめ相談ダイヤルでの対応、教育支援教室での不登校児童生徒への支援等、教育相談員、教育支援員、スクールソーシャルワーカー等がそれぞれの役目を担い連携して、貢献できたと考える。さらに相談・支援の質を高めるようにしていきたい。			

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)

比較事項	教育相談事業実施状況								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	○	○	○	○	○	○	○	○	○
比較事項	教育支援(適応指導)教室事業実施状況								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	○	○	○	○	○	○	○	○	○
比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	各市町村で実施されている。								

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	質の高い相談・支援を実施していく						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
毎年相談・支援の質を高めていけるようにする。	目標値	質の高い相談・支援の実施	さらに質の高い相談・支援の実施	さらに質の高い相談・支援の実施	さらに質の高い相談・支援の実施	さらに質の高い相談・支援の実施	さらに質の高い相談・支援の実施				
	実績値	質の高い相談・支援を実施した									
	達成率										
指標の内容							単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
	目標値										
	実績値										
	達成率										
指標の内容							単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
	目標値										
	実績値										
	達成率										
指標の内容							単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
	目標値										
	実績値										
	達成率										
指標の内容							単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
	目標値										
	実績値										
	達成率										
当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	相談室事業の成果は、児童生徒や保護者の安心感や喜び、達成感といった数値で表せないものがほとんどと言える。教育センターとしての自己評価から推測して確認していく。										

● 事業に関する特記事項

<input type="checkbox"/> 第3期基本計画前期実施計画重点事業	<input type="checkbox"/> 19節で予算措置している補助金が含まれる事業
--	---